

様式1(主な取組)

活動指標名	留学派遣者数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	99人	93人	94人	99人	85人	100人	85.0%	160,318	概ね順調	<p>前年度までに派遣した派遣生の帰国後、アンケートや報告書のとりまとめを行うと同時に、新たに高校生85名を1年間の派遣期間で国外へ派遣した。その後、平成31年度派遣生の募集・選考を行った。</p>
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
<p>①短期研修の充実したプログラムに参加することで、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に対し、長期留学にも応募するよう促していく。</p>						<p>①3月末に行われる合同報告会(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業と合同)の際に、派遣生代表の留学体験談を発表を介して、短期研修参加者へ長期留学の応募を促した。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・諸外国においては、意思表示することで物事が解決が図られるため、派遣生において新しい環境への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安がある。

○外部環境の変化

・国際情勢の変化等による治安上の問題がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・派遣生において新しい環境への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安があるため、短期研修と連携したステップアップシステムの構築が必要である。
- ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、派遣先の現地事務所等との連携を図る必要がある。



4 取組の改善案(Action)

- ・短期研修の充実したプログラムに参加することで、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に対し、長期留学にも応募するよう、事前・事後研修等を通して意識の高揚を図る。
- ・派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の状況把握に努める。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	アメリカ高等教育体験研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			実施計画記載頁	351
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、アメリカの州立大学等へ高校生を派遣し、大学生生活を体験させる。		50人派遣数				
実施主体	県	高校生をアメリカの大学へ派遣し、体験交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		
予算事業名	アメリカ高等教育体験研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	38,812	39,408	38,181	35,495	36,675	36,676	一括交付金(ソフト)	○H30年度: アメリカの州立大学へ高校生40人を19日間派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生生活を体験させた。 ○R元(H31)年度: アメリカの州立大学へ高校生40人を19日間派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生生活を体験させる。
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		○H30年度: ○R元(H31)年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
	50人	50人	50人	50人	40人	50人	80.0%	36,675	概ね順調	アメリカの州立大学へ平成30年7月23日から8月11日の約3週間、高校生40人を派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験させた。スムーズな本研修実施へむけた事前研修を4回、本研修のまとめてとしての事後研修を1回実施した。		
活動指標名	—				H30年度							進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	—	—	—	—	—	—					派遣者数は計画値50人に対し実績値は40人で進捗状況は概ね順調である。実績値を40人とするにより、語学力、主体性のより高い生徒を選考し、現地での研修を一層充実させた。	
活動指標名	—				H30年度							高校生40人をアメリカの州立大学へ派遣し、大学での語学、リーダーシップ研修を実施するとともに、ホストファミリーとの交流も異文化理解につながっている。以上のことから交流の架け橋となる人材育成の基礎作りが図られた。
実績値	—	—	—	—	—	—						
(2)これまでの改善案の反映状況												
平成30年度の取組改善案						反映状況						
<p>①現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修を実施する。</p> <p>②実践的な英語コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築する。</p> <p>③受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。</p>						<p>①外国語講師を活用し、ホームステイや現地研修を想定した英会話能力向上を図るための研修内容に取り組むとともに、前年度派遣生徒や引率教諭を活用した異文化理解を図る研修を実施した。</p> <p>②実践的な英語コミュニケーション能力を測る面接試験として、集団討議試験を実施した。</p> <p>③受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させた。また、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談があった。</p>						



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、事前研修ではコミュニケーションツールとしての英語力を身に付ける語学研修や異文化理解について学ばせる必要がある。
- ・研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力の高い生徒を選考する必要がある。
- ・海外研修による人材育成の取り組みを共有し周知するため、研修後の報告会等の実施をさらに推進する必要がある。

○外部環境の変化

- ・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について、前年度派遣生・引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。
- ・実践的な英語コミュニケーション能力をはかるため、英作文試験や面接試験において語学力、積極性を計る選考試験を実施する必要がある。
- ・研修後に実施している各校での報告会、小中学校で実施している報告会(グローバル塾)を推進し、周知活動をさらに充実させる必要がある。
- ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る必要がある。



4 取組の改善案(Action)

- ・現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修を実施。
- ・実践的な英語コミュニケーション能力を測る英作文試験や面接試験内容の構築。
- ・校内報告会後の生徒アンケートの実施、小中学校と連携したグローバル塾の実施。
- ・受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	海外サイエンス体験短期研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			実施計画記載頁	351
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、海外での研究機関等の訪問、現地高校・大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図る。		25人派遣数				
実施主体	県	県内高校の生徒を外国の高等学校等へ派遣し、理科系の科目を中心に受講させ				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		
予算事業名	海外サイエンス体験短期研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	12,773	12,716	12,566	12,795	10,901	14,558	一括交付金(ソフト)	○H30年度: カナダ・ブリティッシュコロンビア州へ11日間、高校生20人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等授業参加などを実施した。 ○R元(H31)年度: オーストラリア・ビクトリア州へ11日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを実施する。
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		○H30年度: ○R元(H31)年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
	25人	25人	25人	25人	20人	25人	80.0%	10,901	概ね順調	カナダ・ブリティッシュコロンビア州へH31年2月 から3月の11日間、高校生20人を派遣し研究機 関等の訪問、現地高校大学等での授業参加など を通して理系分野の人材育成の基礎作りを図っ た。また、研修効果を高めるため、事前、事後研 修も行った。		
活動指標名	—				H30年度					—	—	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
	—	—	—	—	—	—	—					派遣数は計画値25名に対し、研修先の受入数 変更の理由から今年度は、20名の派遣になっ た。
活動指標名	—				H30年度			—	—	研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業 参加などを通して、科学分野への興味関心を高 め、海外の大学等への進学に対する意欲の喚起 が図られたため、進捗状況は概ね順調である。		
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
	—	—	—	—	—	—	—					
(2)これまでの改善案の反映状況												
平成30年度の取組改善案						反映状況						
<p>①現地高等学校等や研究機関における研修内容で深い学びへと繋がるよう、事前研修 で実施している派遣生徒を対象とした「サイエンスイマージョン研修」を更に充実させる。</p> <p>②派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の 状況把握に努める。</p>						<p>①東大や筑波大大学院博士課程在籍の外国出身学生によるサイエンスイマージョン (英語で学ぶ科学)授業を取り入れるとともに、現地滞在のコーディネーターによる異文 化理解の講義を取り入れた。</p> <p>②現地での緊急時を含めた対応・体制について、委託業者選定時の企画提案書へ明 記させるとともに、実際の研修時の研修状況や生徒の様子等について委託業者に報告 させ状況把握に努めた。</p>						



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・現地での授業参加等をより高いレベルで推進する為には、派遣生徒全体の語学力及び積極性を高める必要があるとともに、引率教諭については、現地教諭とのコミュニケーションのための語学力が必要となる。また、研修内容にホームステイを含むことから、異文化理解についての研修は今後も実施する必要がある。
- ・海外研修による人材育成の取り組みを共有し周知するため、研修後の報告会等の実施をさらに推進する必要がある。

○外部環境の変化

- ・研修プログラムを円滑に実施する適正数を保つ必要がある。
- ・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・派遣生徒を対象とした事前研修等において、語学や異文化理解に関する研修内容の充実を図る必要がある。
- ・研修後に実施している各校での報告会、小中学校で実施している報告会(グローバル塾)を推進し、周知活動をさらに充実させる必要がある。
- ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、派遣先の現地事務所等との連携を図る必要がある。



4 取組の改善案(Action)

- ・現地高等学校等や研究機関における研修内容で深い学びへと繋がるよう、事前研修において「異文化理解研修」「コミュニケーションスキル研修」「サイエンスイマージョン研修」を更に充実させる。
- ・校内報告会后に生徒アンケートを実施し、小中学校と連携したグローバル塾の実施を推進する。
- ・派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の状況把握に努める。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	中国教育交流研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			実施計画記載頁	351
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、中国語を学んでいる高校生を中心に異文化体験や現地高校生との交流を通して、中国への更なる興味関心を高める。		20人 派遣数				→
実施主体	県	高校生を中国へ派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		
予算事業名	中国教育交流研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 中華人民共和国上海市へ13日間、高校生20人を派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国への興味関心を高めた。 ○R元(H31)年度: 中華人民共和国上海市へ13日間、高校生20人を派遣し、現地高校での授業参加、文化分野などを実施する。
一括交付金(ソフト)	委託	7,761	7,735	7,627	7,730	7,716	7,857	一括交付金(ソフト)	
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度:
		—	—	—	—	—	—		○R元(H31)年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	20人	20人	20人	20人	20人	20人	100.0%	7,716	順調	中華人民共和国上海市へH31年3月3日～3月15日の13日間、高校生20人を派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国文化への興味関心を高めた。また研修効果を高めるため、事前研修及び事後研修を行った。	
活動指標名	—				H30年度					実績値	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	—	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					実績値	
	—	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況											
平成30年度 of 取組改善案						反映状況					
<p>①事前研修等において語学や異文化理解に関する研修を実施するとともに、派遣生それぞれの中国語運用能力を把握し、現地研修終了後、事前・現地研修で学んだ語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。</p> <p>②受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</p>						<p>①選考試験において昨年度に引き続き中国語によるプレゼンテーションを実施し、選考時から語学能力の向上を図るとともに、事前研修においても現地での交流会やホームステイ等を想定した語学研修を実施した。その他、沖縄県上海事務所長の講話や上海県人会との交流会を実施した。</p> <p>②委託業者と契約締結段階から緊急時対応への課題共有を図り、派遣期間中も報告・連絡・相談を行った。</p>					



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・現地での授業参加や交流等をより高いレベルで推進するため、派遣生徒全体の語学力を高める必要がある。
- ・海外研修による人材育成の取り組みを共有し周知するため、研修後の報告会等の実施をさらに推進する必要がある。

○外部環境の変化

- ・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・派遣生徒を対象とした事前研修等において、主体性を高めるリーダー研修および語学や異文化理解に関する研修内容を実施するとともに、現地大学での語学研修の充実を図る必要がある。
- ・研修後に実施している各校での報告会、小中学校で実施している報告会(グローバル塾)を推進し、周知活動をさらに充実させる必要がある。
- ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る必要がある。



4 取組の改善案(Action)

- ・事前研修等で、リーダー研修および語学や異文化理解に関する研修を実施し、現地研修後には語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。
- ・校内報告会后に生徒アンケートを実施し、小中学校と連携したグローバル塾の実施を推進する。
- ・受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、企画提案書へ明記させ、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト			実施計画記載頁	351
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
沖縄とハワイ双方向において絆を深め、先の大戦によって焦土化した双方の悲惨な状態からの復興と平和、将来の展望等について、共に学び考える機会を設けることで、自国と他国の歴史や文化を真に尊重できる、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成を図る。		25人 派遣数				
		約25人 受入数				→
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					
		沖縄県高校生の派遣及びハワイ州高校生の受入による交流を実施				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)			
予算事業名 沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト(H25・26は受入・派遣、H27以降は受入のみ)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
県単等	直接実施	2,482	783	416	411	540	631	県単等	○H30年度: ハワイ州高校生25名を受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施した。 ○R元(H31)年度: ハワイ州高校生25名を受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施する。	
予算事業名 沖縄県高校生海外雄飛プログラム(H27以降派遣のみ)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	委託	—	9,985	9,993	9,920	9,771	9,952	一括交付金(ソフト)	○H30年度: ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施した。 ○R元(H31)年度: ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施する。	

様式1(主な取組)

活動指標名	受入数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	16人	15人	12人	10人	13人	25人	52.0%	10,311	概ね順調	(受入)ハワイ州高校生13名を2週間受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施した。 (派遣)ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施した。
活動指標名	派遣数				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	25人	25人	25人	25人	25人	25人	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	—				H30年度					派遣に関しては計画値どおり順調であるが、受入に関しては円高の影響等ため計画値25名の半数ほどとなり、事業全体では概ね順調となっている。 ハワイでの研修を通して、語学力の向上と異文化理解の促進を図ることができた。また、県内の高校生が、受け入れたハワイの高校生と交流し、相互理解を深めることができた。 ハワイでのツーリズム研修を通して、沖縄のツーリズムを担う人材育成を図ることができた。
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
<p>①受け入れについては、体験型プログラムの導入により沖縄の文化学習をより充実させるとともに、これまで行ってきた平和資料館等の見学の際に、新たに平和に関する講話を行う。</p> <p>②ハワイ沖縄連合会、委託業者、現地スタッフとの連携強化を図り、受入人数の増加を目指す。</p> <p>③派遣については、観光産業について座学だけでなく実地研修の充実を図る。</p>						<p>①美ら海水族館見学と本部高等学校生徒と共に行い、地元の高校生の説明により水族館を回ることができ、沖縄の踊りや三線の実演などを体験してもらうことが出来た。平和祈念資料館での見学では、平和に関する講話を英語で聞いた後、生徒達が平和について話し合いを持った。</p> <p>②ハワイ沖縄連合会と現地再委託業者との話し合いを重ね、座学研修会場や移動手段の見直し、またツーリズム研修講師を沖縄関係者に変更することにより、プログラムの改善・拡充を行った。</p> <p>③派遣について、ポリネシアンカルチャーセンター見学等の実地研修を増やした。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・ハワイ州から来沖する高校生の日本語力に差異がある。
- ・観光立県を標榜する本県の観光産業を担う人材を育成を目的の1つとしていることから、関連するプログラムの拡充が必要である。

○外部環境の変化

- ・為替の変動によって、ハワイ州高校生の参加者に影響がでる事がある。
(参考)H24:21名 H25:12名 H26:16名 H27:15名 H28:12名 H29:10名

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ハワイ州高校生に沖縄の文化や歴史をより理解してもらうため受入プログラムの必要がある。訪問や見学だけでなく、文化体験や語り部による平和学習に通訳をつけるなどプログラムの改善が必要である。
- ・派遣する際に座学だけでなく実地研修を充実させるなど、観光産業に関するプログラムを拡充する必要がある。



4 取組の改善案(Action)

- ・受け入れについては、首里城見学等の県内研修の際に沖縄の本取組で派遣させる生徒が行う英語でのガイドを新たに始める。
- ・ハワイ沖縄連合会、委託業者、現地スタッフとの連携強化を図り、受入人数の増加を目指す。
- ・派遣については、観光産業について事前研修と本研修がさらにつながり、生徒の学びに資するようにする。座学と実地研修の内容の精査も行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	芸術文化国際交流(書道)(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			実施計画記載頁	351
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
本県の高校生と台湾の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。		20人				
実施主体		県				
担当部課【連絡先】		教育庁文化財課 【098-866-2731】				
		高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		
予算事業名	グローバルリーダー育成海外短期研修事業(沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム)						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	3,858	4,294	3,900	3,720	4,065	4,050	一括交付金(ソフト)	○H30年度: 書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施した。 ○R元(H31)年度: 書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施予定。
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		○H30年度: ○R元(H31)年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	20人	20人	20人	20人	20人	20人	100.0%	4,065	順調	書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し、文化交流を実施した。 台湾では、現地の高校に相当する、台北市立第一女子高級中学、師範大附属高級中学と有意義な交流を行った。また、淡江大学中国文学科にて張炳煌教授からデジタル書法の指導を受けた。
活動指標名					H30年度					
実績値										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										派遣人数について、計画値20人に対し、実績値20人となった。台湾での交流で書の文化に対する理解がより深まった。 外国との文化の違いやコミュニケーションをとるために英語力を向上させようとする姿勢がみられた。実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。 他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。
活動指標名					H30年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
①高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。 ②語学研修の内容の充実に努める。 ③事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。 ④交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。						①情報共有ができ、事前研修・本研修とも円滑に取り組めた。 ②語学研修を7時間実施し、会話の充実が図れた。現地学習等も8時間実施し、昨年度より学校交流等で学んだことを活かすことができた。 ③引率教諭の負担減につながり、各生徒の主体性、積極性及び協調性等の自己評価が高まった。 ④ゆとりある日程にしたことで、現地高校生とのランチ交流も実現し、昨年より交流する時間が増えた。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。
- ・交流の際に必要な語学力が十分でない。

○外部環境の変化

- ・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。
- ・現地交流校との受入日程調整が必要となる。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・本研修をより深めるために、事前研修の内容について更に吟味する必要がある。また、成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。
- ・交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。
- ・事前に受け入れ現地高校等と日程調整を行う。

4 取組の改善案(Action)

- ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い研修に繋げると共に語学研修の内容を検討し、本研修の充実に努める。
- ・ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりし、目的意識や達成感の高揚に努める。
- ・交通状況や生徒の体調に配慮し、現地での交流が充実したゆとりある日程を検討する。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	60人	59人	60人	54人	50人	54人	92.6%	25,275	順調	音楽、美術・工芸、郷土芸能分野で活躍する高校生をドイツ、台湾、ハワイそれぞれへ派遣し、文化交流を実施した。派遣人数について、計画どおり50人を派遣した。 3か国とも現地高校と交流を行った。また、各分野とも現地の一流の芸術家または大学教授から個別で実技指導を受けた。
活動指標名					H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 高校生をH30は50名3か国に派遣した。それぞれの国での交流で芸術文化に対する理解がより深まった。外国との文化の違いやコミュニケーションをとるために、英語力を向上させようとする姿勢がみられた。実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。 合同成果報告会で他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。
活動指標名					H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案								反映状況		
①高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。 ②語学研修の内容の充実に努める。 ③各分野におけるより効果的で治安のよい派遣先を検討する。 ④各分野の事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。 ⑤交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。								①情報共有ができ、事前研修・本研修とも円滑に取り組めた。 ②語学研修を7時間実施し、会話の充実が図れた。現地学習等も8時間実施し、昨年度より学校交流等で学んだことを活かすことができた。 ③派遣先である台湾、ドイツ、ハワイとも治安もよく、友好的であった。 ④引率教諭の負担減につながり、各生徒の主体性、積極性及び協調性等の自己評価が高まった。 ⑤ゆとりある日程にしたことで、現地高校生とのランチ交流も実現し、昨年より交流する時間が増えた。		



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。
- ・交流の際に必要な語学力が十分でない。
- ・実技の披露だけにとどまらないよう、現地高校生とより深いコミュニケーションが取れるように、引き続き交流校との連携を行う。

○外部環境の変化

- ・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。
- ・特にヨーロッパ派遣は移動時間が20時間、そして時差が8時間と大きく、時差ぼけで体調を崩す生徒がでる。
- ・受け入れ現地高校の行事の時期、台風が襲来しやすい時期、インフルエンザ流行時期や学校行事の時期等を考えて、本研修の日程を組む必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・本研修をより深めるために、事前研修の内容の吟味が必要である。
- ・事前に受入側の現地高校等と日程調整を行う。
- ・本研修の成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。
- ・交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。

4 取組の改善案(Action)

- ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い研修に繋げる。
- ・語学研修の内容を検討し、本研修の充実に努める。
- ・ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。
- ・交通状況や生徒の体調に配慮し、現地での交流が充実したゆとりある日程を検討する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	海外交流拠点形成(英語立県沖縄推進事業)			実施計画記載頁	351
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
高校生の国際交流を促進するため、海外における交流拠点形成のための関係教育機関との調整を図り、視察・検証を行うとともに、学校間姉妹校締結を推進・支援する。						
実施主体	県	8地区				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課					
	【098-866-2715】	海外交流拠点形成のため、外国の教育機関等と交流意向書を締結し、高校生の国際交流				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)			
予算事業名	英語立県沖縄推進戦略事業						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
県単等	直接実施	2,730	2,774	1,315	1,487	1,487	1,520	県単等	○H30年度: 米国モンタナ州及びカリフォルニア州への派遣生徒の視察を行い、交流意向書の締結を行ったカリフォルニア州チコ郡の教育機関と情報交換を実施した。 ○R元(H31)年度: 国際交流推進委員会で協議を重ねアイデアを出しながら、新規の国際交流拠点づくりを計画する。	
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
		—	—	—	—	—	—		○H30年度: ○R元(H31)年度:	

様式1(主な取組)

活動指標名	提携地区数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	6地区	6地区	6地区	7地区	7地区	8地区	87.5%	1,487	概ね順調	国際交流推進委員会で協議を重ねアイデアを だしながら、新規の国際交流拠点づくりを計画し た。さらにすでに協定を結んでいる地区の高校と 県内の高校の姉妹校意向書締結に向けて取り組 んだが、カリフォルニア州の自然災害の影響で米 国から来沖できず、締結には至らなかった。
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 計画値8地区に対して、実績値7地区となっ ており、概ね順調である。すでに県教育委員会と協 定を結んでいる地区の高校と本県の高校の姉妹 校意向書締結に向けて取り組んだため、計画値 達成には至らなかった。しかし、カリフォルニア州 チコ高校と知念高校で姉妹校の締結に向けて継 続協議中である。
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度 of 取組改善案						反映状況				
①交流意向書を結んでいる地域と県内の高等学校との姉妹校交流締結が推進できるよう、国際交流推進委員会で協議を重ねていく。各種研修会等において、国際交流推進委員会について周知を図り、具体的な支援策を提供していく。 ②新規の地域(米国以外)と交流意向書の締結に向けた取組を、国際交流推進委員会で協議を続けていく。						①カリフォルニア州チコ高校と知念高校との間で、姉妹校交流意向書締結間近であったが、カリフォルニア州を襲った大規模な山火事で、チコ高校から生徒及び引率教諭が来沖できず締結には至らなかった。 ②国際交流推進委員会で、新規の交流意向書締結地域を協議し、グローバル研修事業等ですでに沖縄から生徒を派遣している地域が候補としてあがった。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・すでに交流意向書を締結している地域に対して、交流の継続について意思確認をする必要がある。
- ・新たな地域と協定締結に向けて取り組みながら、すでに沖縄県教育委員会と協定を結んでいる7地区の高校と本県の高等学校の姉妹校意向書締結に向けても重きを置くようにした。

○外部環境の変化

- ・インターネットの進化により、SNS等での国際交流が可能となり、学校現場でも独自で取り入れる傾向が見られる。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・交流意向書に基づき、生徒の研修等で派遣をする際に、効果的なプログラムが実施されているか検証を行う必要がある。
- ・国際交流推進委員会において、新規の意向書締結に向けて協議を続けていく必要がある。
- ・SNS等を通じた生徒間の国際交流を安心して行える方法について調査を行う。



4 取組の改善案(Action)

- ・交流意向書を結んでいる地域と県内の高等学校との姉妹校交流締結が推進できるよう、国際交流推進委員会で協議を重ねていく。
- ・実際に姉妹校交流を締結し、交流を続けている浦添高校、普天間高校の実践事例を多くの学校に周知していく。
- ・新規の地域(米国以外)と交流意向書の締結に向け、候補地域の教育委員会や大学等と調整する。
- ・SNS等を通じた国際交流の方法について学校に紹介する。